工事説明書

NAX TBH-FFV-R

(呼び径D80)

■この工事説明書は、工事作業者様が正しく、安全な工事をする為に必要な指導書となるものです。工事開始前に必ずお読みください。

安全上のご注意

●ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ据え付けてください。
ここに示した事項は⚠警告⚠注意に区分しています。

⚠警告：取扱いを誤った場合、使用者が死亡又は重傷を負う可能性が想定される場合
⚠注意：取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う危険が想定される場合及び物的損害のみの発生が想定される場合

●「⚠注意」の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

●取付工事完了後、試運転を行ない異常がないことを確認するとともに取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。取扱説明書はお客様で保管頂くように依頼してください。

給排気筒工事は燃焼を正しく行うためと安全性の点から極めて大切な工事です。
この説明書と機器本体の工事説明書をよくお読みの上指定された工事を行なってください。

⚠警告

1.取付工事の不備は危険

(1)取り付けは、お買上げの販売店又は専門業者に依頼してください。
ご自分で取付工事をされ不備があると、燃焼不良や火災の原因になります。

(2)取付工事は、この取付工事説明書に従って確実に行なってください。
取り付けに不備があると、燃焼不良や火災の原因になります。
又、強度不足や取り付けが不完全な場合は、部品のはずれや落下により、ケガの原因になります。

(3)取付工事部品は必ず付属部品および指定の部品を使用してください。指定部品を使用しないと接続部のはずれや落下、燃焼不良や火災の原因になります。

(4)取付け場所の選定には、下記の内容を守ってください。

- 各地の火災予防条例では、給排気筒の設置基準を定めておりますので、必ず厳守して工事してください。
  - ・付近に燃えやすいものがない場所
  - ・十分排気の行なえる場所
  - ・排気工事が基準通りに行なえる場所

2.外れ危険

(1)給排気筒(管・ホース)が正しく接続されているか点検してください。
外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

(2)取付可能な壁厚寸法(65㎜～250㎜)を守ってください。
守られていないと給排気筒がはずれて、排ガスが室内に洩れて危険です。
又壁厚が小さすぎると給排気筒内に水が侵入し危険です。

3．給排気筒トップ閉そく危険

積雪の多い地域では、給排気筒トップが雪でふさがれないような位置に設置してください。排ガスを再度吸い込んで不完全燃焼を起こすことがあります。

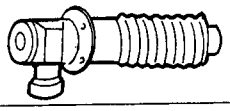
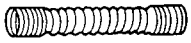
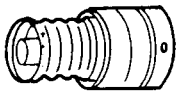
⚠注意

1．やけど注意

排気管は高温になります。排気管にふれないよう注意してください。
排気屋内延長断熱材を使用すると、より安全です。

1 開こん

●梱包の中には下記の部品が入っておりますので、開こんの際紛失しないよう注意してください。

給排気筒ボデー 	1個	(異径伸縮管付 P70.P80 Oリング付 1個)	
給気ホース 	1個	ゴムカフス	2個
給排気スライド管 	1個	パッキン	2個
フランジ (屋外側用)	1個	ストップリングD	1個
ホースバンド	2個	カールプラグ	8個
ストップリングE	1個	フランジ固定ネジ(M4×25)	8個

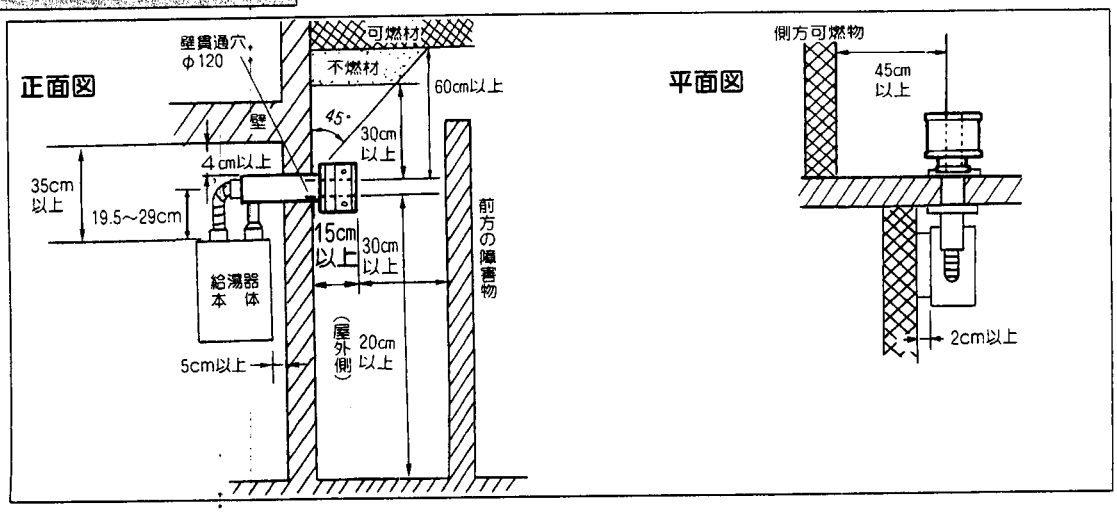
2 給排気筒取付け場所の選定

●機器を据付けるには次の注意点を充分に考慮して適当な場所を選定してください。
各地の火災予防条例では給排気筒の設置基準を定めておりますので、必ず厳守して工事してください。

給排気筒取付け場所の選定

●給排気筒は外気に通じる壁に取付けてください。(必ず屋外に排気してください。)
●給排気筒は集合煙突には絶対に取付けないでください。
●壁に穴をあける場合は壁の内部にある電気配線、ガス管、水道管の近くをさけてください。
またメタルラス張り、ワイヤーラス張りの壁に取付ける場合は、給気筒の外周に市販の絶縁テープ等を巻いて電気的絶縁を施してください。
●人通りの激しいところや、雪や風の吹きだまりになるような場所、ツララの真下になるようなところには取付けないでください。
●給排気筒の周囲や近くに、危険物や障害物のないところを選んでください。

給排気筒の標準取付け図



可燃物との距離

●給排気筒は、木材などの可燃物から、「給排気筒の標準取付け図」に示す距離をとってください。
●周囲が不燃材料で有効に仕上げられた建築物等の部分及び防熱板の場合の距離は5cm以上緩和されます。
又防火評定認定品で定められている場合、その寸法で設置できます。
●B寸法は各々の製品の工事説明書に従ってください。

給排気筒の距離

●排気出口と上方可燃物との距離は60cm以上(不燃物の場合は30cm以上)あること。
●排気出口と側方障害物との距離は45cm以上あること。
●前方に堀や建物がある場合は、給排気筒と前方障害物との距離は30cm以上離し、かつ上方、および両側方に気流を阻止する障害物がないこと。
●排気出口は、地面などから20cm以上離すこと。
■寒冷地(積雪地域)では、地表面から給排気筒までの距離を出来るだけ大きくとって給排気筒が雪で閉塞されないように注意してください。

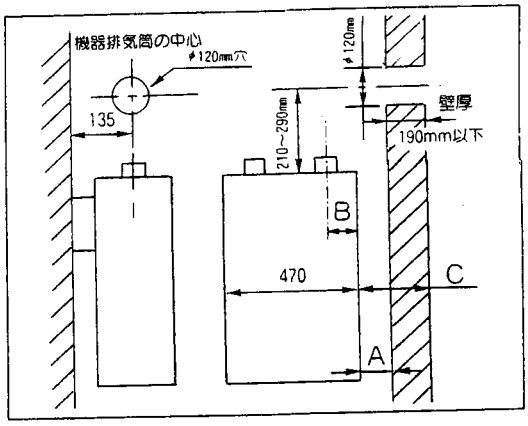
雪で閉塞されないように注意してください。

3 給排気筒の取付け方法

1.壁の穴あけ

- 機器の上端面から210～290mm上方で機器取付壁から135mmの位置に穴をあけてください。壁の穴径はφ120mmです。
- A寸法は、周囲が不燃材料で有効に仕上げされた建築物などの部分及び防熱板の場合及び、可燃物との距離は、5cm以上の離隔距離をとってください。
- また、本体と壁との設置可能寸法Aは壁厚によって変ります。
- 離隔距離が大きくなると取付可能な壁厚がうすくなります。
  - ＊B寸法　140mm
  - ＊C寸法（壁厚＋A寸法）
    最大240mmまで

TBH-FFV-AD	対象壁厚	420～530mm
TBH-FFV-AD2	対象壁厚	320～430mm
TBH-FFV-AD3	対象壁厚	250～330mm



2.給排気筒の取付け

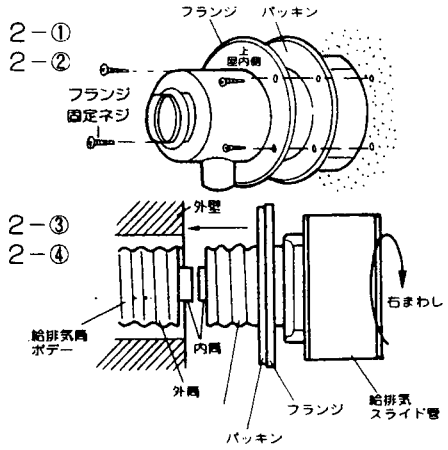
①給排気筒ボデーにパッキンを組込んだ後に給排気筒ボデーを壁穴に差込み、給排気筒に取付けている異径伸縮管を下にずらし、本体の排気口に差込みます。

②フランジの(屋内側上)表示が上にくるようにして付属のフランジ固定ネジ4本で壁に取付けます。

[壁がコンクリートやタイルなどの硬質壁の場合、またメタルラス張り、ワイヤーラス張りの壁に取付ける場合は付属のカールプラグを打込んでからネジで止めてください。(φ6.4mmのドリルで下穴をあけてください。)]

③屋外側は付属のパッキンとフランジを給排気スライド管に差込みます。

④給排気スライド管の内筒(φ70部分)を給排気筒ボデーの内筒に差込み、その後、外筒どうしをネジ込んで、屋外側フランジが外壁に密着するまでスライド管をネジ込んでください。

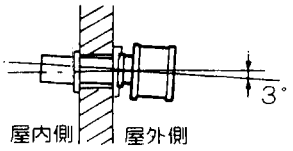


⑤壁厚がうすい場合は屋外側フランジを移動させて、フランジを付属の固定ネジで外壁に取付けてください。

- フランジの内、外周にパテまたはコーキング材を塗布し壁の中に雨水が浸入するのを防いでください。

⚠注　意

給排気筒のフランジを正しく付けると約3°の傾斜で下向きになります。給排気筒を上向きに(逆に)取付けると雨水などが給排気筒に入り込み、逆流して給湯機の故障の原因となります。



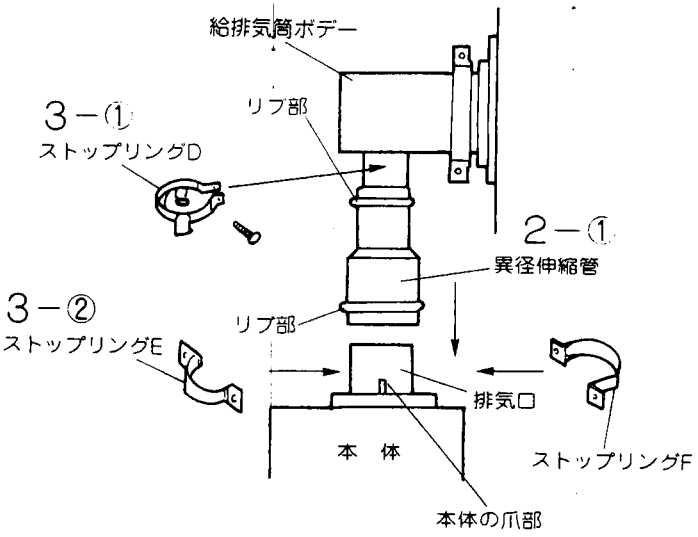
3.排気筒の接続

①ストリップリングDを給排気筒ボデーに挿入し、先端爪部を異径伸縮管のリブ部に引っ掛けた後、付属のストップリング固定ネジできっく締付けます。

②ストップリングEとストップリングFの先端爪部を異径伸縮管のリブ部に引っ掛けた後、本体の爪部をはさみ込む様にして付属のストップリング固定ネジ(2ケ所)で締付けます。

⚠注　意

- 排気筒から排ガスが漏れると非常に危険です。排気筒取付け後、付属のストップリングで接続部が抜けないよう確実に固定してください。

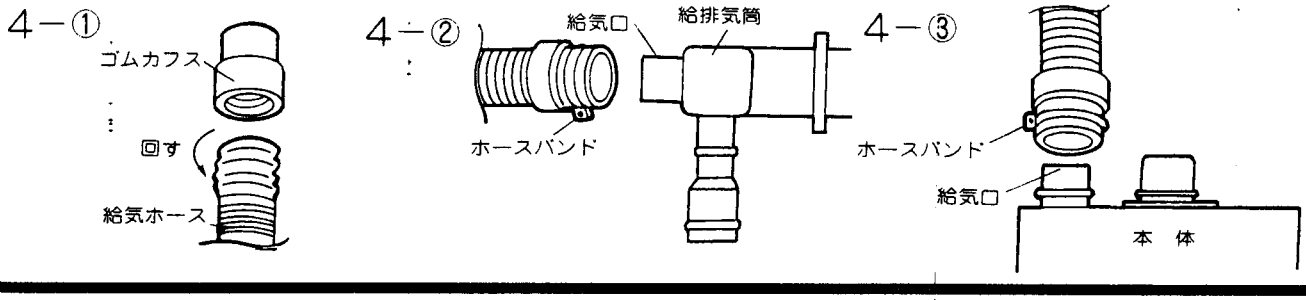


4.給気ホースの取付け

①給気ホースの両端にゴムカフスをねじ込み接続してください。(左ネジです)

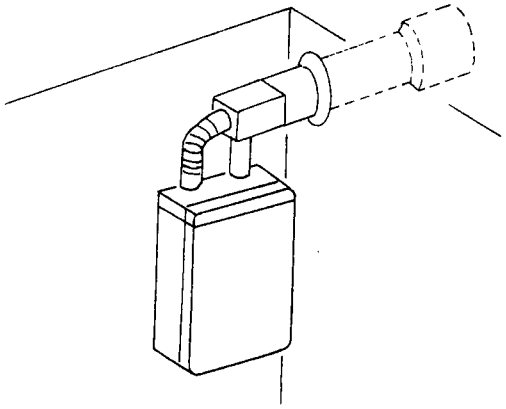
②給排気筒の給気口にゴムカフスを差込み、付属のホースバンドでしっかり固定してください。

③給気ホースを引伸ばして、もう一方のゴムカフスを、機器本体の給気口に差し込み、付属のホースバンドでしっかり固定してください。

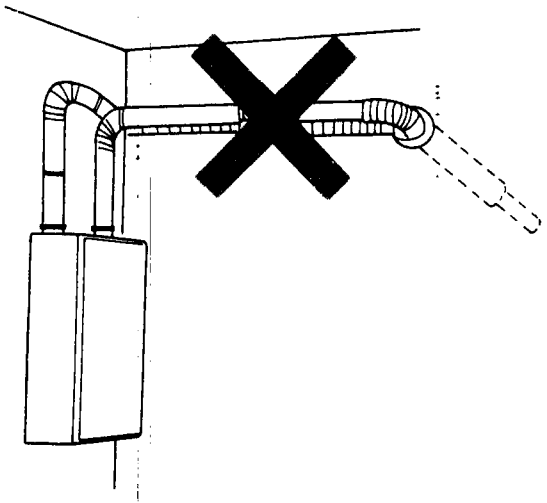


TBH-FFV-Rは右壁直付け用ですので延長できません。
（延長すると異常燃焼をすることがあります）。

TBH-FFV-R
（右壁，直出し用）



〈延長はできません〉



4 給排気筒の点検と掃除

給排気筒の取付け工事が終わりましたら、下記の項目をもう一度点検してください。

- 給排気筒が正しい場所に取付けられていること。又、標準取付け寸法以上になっていること。
- 可燃物、カーテン、洗たく物などが給排気筒に接触していないこと。
- 給排気筒が上り勾配になっていないこと。
- 排気筒の接続部がゆるんでいないこと。（ストップリングで固定されていること。）
- 排気筒と給気ホースとは接触していないこと。
- 給排気筒の掃除は必ず運転が停止し給排気筒の温度が下がったことを確認してから行なってください。